

音楽から学んだこと

私は母親の影響もあり3歳からピアノを始めました。また、10歳からはヴァイオリンも始め、香川ジュニアオーケストラにも所属していました。その後、高校生になってからは勉強を優先させたため一時期楽器の演奏は辞めてしまいましたが、大学では再び楽器の演奏をしたいと思い、現在は大阪大学邦楽部銀簫会に所属して箏を演奏しています。そこで私は音楽と関わることで得たものについて話したいと思います。

まず今までの楽器演奏経験から、継続して練習することの大切さを学びました。「楽器の演奏は1日怠れば3日分下手になる」ということを私のピアノの先生は仰っており、実際にその通りであると実感したため、小さい時からピアノを毎日練習する事が習慣になっていました。何事も上達したいと思うのであれば継続的な努力が欠かせないのだと身をもって学べたことは、その後の私の人生に大きな影響を与えていると思います。また、発表会やコンクールなど、舞台に立つ機会が多くあったことも良い経験だったと思います。何度もステージを経験する中で、自分が本番にあまり強い方ではないということが分かったため、どうすれば緊張した状況下で自分の力を十分に発揮できるか、本番に向けての練習の仕方や自分のモチベーションの上げ方について試行錯誤しながら学んでいけたことは現在でも役立っています。

今年は新型コロナウイルスの影響で音楽活動が制限され、今までと同様に楽しむことが難しくなってしまいました。音楽は衣食住と違って生きていくために必要不可欠なものではありませんが、音楽があることで生活は豊かになります。このような不安なご時世であるからこそ音楽が人々の希望になることも多々あるのではないかと思います。私自身、苦しい時や不安な時に何度も音楽によって救われてきました。今後も大学での部活に留まらず、何らかの形で音楽に関わっていきたいと思っています。そして、音楽を通して得た学びを今後の自分の糧とし、より良い人生を送れるよう精進して参りたいと思います。